

日常にある平和の尊さを伝えようと、広島市の学生らが開いた影絵展  
＝5日夜、広島市中区



## 平和へ祈りつなぐ 広島で影絵展 きょう原爆の日

71回目の広島原爆の日を翌日に控えた5日夜、広島市中区の平和記念公園近くの路上で「小さな祈りの影絵展」が開かれ、被爆者の過去と現在を描いた影絵22枚がほのかな光に浮かび、来園者に平和の尊さを訴えた。

影絵展は、同市の大学生や中高生らでつくる団体「影絵ユースワークショップ」が毎年、原爆の日に合わせて開催。今年のテーマは「つなぐ」で、平和のともしびをつないでいきたいという思いを込めて制作した。

5日は大勢が影絵ボックスに立ち寄り、日常の小さな幸せを描いた美しい影絵に見入っていた。広島市西区の看護師竹田詩子さん(49)は「日々の暮らしがテーマの影絵はとても美しく、若い人たちが一生懸命活動している姿に心打たれた」と話した。ワークショップのリーダーで広島女学院大4年森長蓉子さん(22)は「影絵を通して身近にある平和の大切さを少しでも感じてほしい」と語った。

(伊藤愛)